

令和7年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
生活自立支援キャンプ

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

経済的な事情などで、子供たちに体験をする機会が与えられていないひとり親家庭を対象に、瀬戸内海に面した岡山ならではの体験活動を行い、ひとり親家庭での体験活動を支える。

2. 事業の概要

（1）期日

令和7年11月16日（日）日帰り

（2）参加者

① 募集対象・人数

岡山県内のひとり親家庭、小学生とその家族 15家族30人程度

② 参加人数

21家族（52人）

（3）連携機関

NPO法人チャリティーサンタ

ソーシャルワークセンターつばさ

岡山県渋川青年の家

渋川マリン水族館

（4）講師

黒田 幸保 氏（日本キッズコーチング協会）

（5）企画・運営のポイント

① 地域にある他施設との連携を図り、日帰りながらもプログラムの充実を図った。

② 参加費、食費無料、無料バス送迎を行い、保護者の負担軽減に努めた。

③ 一般募集はせずに、ひとり親家庭や経済的に困難な状況にある家庭の支援に取り組んでいるNPO団体と連携し、対象の家庭に直接案内が届くように広報協力を依頼した。

④ 保護者が日々の生活や子育ての悩みを相談できるように親子別々の活動プログラムを設定した。

⑤ 法人ボランティアが運営のために必要な人材というだけでなく、子供たちにとって心を許せる存在になれるように、子供たちと関わる時間をしっかりと設けた。

3. 活動の日程・内容

令和7年11月16日（日）日帰り

11月16日（日）	
10:00	受付
10:15	開会式・オリエンテーション
10:30	渋川マリン水族館
12:00	昼食（渋川海岸）
13:00	子供 (スポーツ) 保護者 (日本キッズコーチング協会講師による保護者交流会)
15:15	閉会式

4. 成果・課題

（1）満足度

満足：68% やや満足：32%

（2）参加者の声

- ① 海岸で貝殻拾いの時間があつて良かったが、もっと長い時間したかった。
- ② 兄妹で同じように接して育児をしているつもりが、全然違う性格なので疑問に思っていたことが解決した。
- ③ このようなイベントがもっとあると嬉しいです。

（3）成果

- ① 渋川マリン水族館の館長によるクイズをもとにした海の生き物の話が参加者にとって楽しく学べる場面となった。
- ② 参加に係る経費無料、NPO団体を通した募集の成果があり、定員を大きく超える応募があった。内容を調整することで応募者全員が参加し、体験することができた。
- ③ 渋川海岸でお弁当を食べたり、貝殻拾いをしたりする自然体験が好評であった。
- ④ 日本キッズコーチング協会講師による交流会は、同じ悩みや課題を抱えている保護者にとって貴重な時間となった。
- ⑤ 子供の対象を幼児から小学生とすることで、異年齢での関わりが生まれ、お互いに協力したり一緒に遊んだりする姿が見られた。
- ⑥ 子供と法人ボランティアの関わりを長時間取ったことは、子供だけでなく法人ボランティアにとっても貴重な時間となった。今回初めて教育事業に参加する法人ボランティアが数名いたが、子供の純粋さや優しさに心打たれて今後も参加したいという声を聞くことができた。

（4）今後の課題

- ① 「今後、国立吉備青少年自然の家でどのような活動をやってみたいか。」というアンケートの問い合わせに対し、「キャンプ」「季節のイベント」「自然の中を散策したい」等の回答が多数あった。所外に出て他機関と連携し、様々な活動プログラムを体験することは有意義であったが、それと同様に当自然の家のプログラムにも参加者からのニーズがあることを踏まえて、次回以降は活動内容を更に精選したい。
- ② 今回の事業は、所外で一般の方がいる場面で行った。そのため、タイムスケジュールを重視するあまり、事業の目的やねらいを参加者とスタッフの間に十分に共有しないまま進行させてしまった場面があった。事前や当日に事業の目的や大切な動きなどは、しっかりと伝える必要性を感じた。

担当：企画指導専門職 八木 雄治